

津波を想定した初の避難訓練

―落石西町会地域防災訓練4/14―

落石西町会の地域住民40人が、大津波警報発令を想定した避難訓練と避難所設営訓練に参加しました。

落石地区には、大津波に対応できる標高47・9mに位置する3カ所の避難場所があり、今回、落石会館を使用した初の避難訓練。会館では、長期保存が可能なアルファ米と、豚汁を住民たちで調理を行い、試食したほか、心肺蘇生方法やAEDの使用方法、消火器を使用した初期消火訓練などが行われました。

参加した住民からは、市職員や消防職員に対し、一つひとつの訓練の度に、質問が寄せられるなど防災意識の大切さを改めて認識していました。



車を付けて、学校を楽しんでね

―春の交通安全運動スタート4/6―

春の全国交通安全と新入学(園)児の交通安全運動初日に、市内3小学校前では、市と、根室振興局、根室警察署、根室交通安全協会など、各機関の代表が黄色ワッペン、ランドセルカバー、防犯ブザーなどを配布して、交通安全を呼びかけました。

同運動は交通環境に慣れない新入学(園)児の交通事故が心配されるため、毎年入学シーズンに合わせて行っています。

この日、成央小学校前には、各機関の代表者らが保護者に手を引かれ真新しいランドセルを背負ってきた新1年生に「車を気を付けて、学校を楽しんでね。」と声をかけ啓発資料を手渡しました。



昆布料理19品が次々に品切れに

―第11回昆布料理発表会4/6―

歯舞産昆布の消費拡大を目的に、市と歯舞漁協女性部が主催の「第11回昆布料理発表会」が市総合文化会館で行われました。

会場には、およそ500人が詰めかけ、テープカットならぬ昆布カットで、試食がスタート。

今年も歯舞漁協女性部や協賛団体が、昆布を使用したアイデア溢れる「ませご飯」「コロッケ」などの13品、「シフォンケーキ」などのスイーツ6品の計19品が、開始わずか10分程度で用意した各200食が品切れとなりました。

詰めかけた大勢の市民からは、多彩な料理に関心しながら、一つひとつ料理を堪能していました。



大震災を教訓に地域協定の再強化

―F Mねむろとの災害協定の締結3/29―

市とF Mねむろは、平成12年9月に「災害時における災害広報活動の協力に関する協定書」を締結しましたが、東日本大震災を受け、地域への情報を早急に提供し、市民生活の安全を図ることを目的に、協定内容の一部を見直した締結式が市役所で行われました。

今回の協定により、防災・減災対策、平常時における災害広報、甚大な災害発生時における長期間の災害広報などが充実したものとされました。

今後、この協定に基づきF Mねむろは、啓発広報番組の放送や、災害時の安否などの情報を提供するなど、ラジオ放送による情報伝達を強化します。



滋賀県の中学生が領土問題を学ぶ

―北方少女交流事業受入3/24、27―

北方領土返還要求推進協議会は、滋賀県住民会議による第26回滋賀県「私たちと北方領土」を題材とした作文コンクールに入賞した滋賀県の中学生を受け入れました。

同コンクールで、知事賞を受賞した滋賀大教育学部附属中2年の土田彩果さんが作文を市役所で朗読し、石垣副市長をはじめ柴山教育長や市職員らが聞き入っていました。

今回、26回目の訪問となる同県住民会議は、30周年記念事業の一環として、派遣枠を例年の4倍に拡大し、中学生19人と引率者4人が、3泊4日の日程で、北方領土学習をはじめとする市内各施設のパログラム体験しました。

